

戦艦大和（其之二）（相原泥舟）
戦艦大和沖繩出撃の図に題す

一億に 魁 征 総特攻の

非情なる 軍令 艦に 下る

決然として 国に 殉ず 三千の 士

出撃す 制空 無援の 中へ

一億魁征總特攻 非情軍令下艦艦
決然殉國三千士 出撃制空無援中

解説 戦艦大和沖繩出撃の図に題して詠じた詩。

大意 太平洋戦争末期、連合艦隊司令部は、戦艦大和以下数隻の残艦に片道分だけの燃料を搭載して沖繩本島に突入、艦体を座礁させて固定砲台とし、上陸した米軍に砲撃を加え、弾薬が尽きた後は全乗員が陸戦隊となつて敵部隊へ突撃を敢行せよという、生還を期さない水上特攻作戦を立案した。これが「天一号作戦」と呼ばれるものである。出撃部隊の長官・伊藤整一海軍中将は、当初この作戦に強く反対したが、司令部の「一億総特攻の先駆けとなれ」という最後の一言で遂に決断した。昭和二十年四月六日午後四時、停泊中の山口県三田尻沖を抜錨、圧倒的兵力を誇る米海軍航空部隊の待ち構える沖繩に向かって出撃した。

語釈 ※一億Ⅱ一億国民総特攻の先駆けとなり、その手本を示せ。

※軍令Ⅱ軍中の命令。※艦艦Ⅱ軍艦。※決然Ⅱ心に強く決心したさま。

※殉Ⅱ主君の死を追って死ぬ。殉死する。※三千士Ⅱ大和乗組員三千余名。※制空Ⅱ空中を支配・管制する能力。※無援Ⅱ助けのないこと。

通釈 司令部の「一億国民総特攻の先駆けとなり、その手本を示せ」という非情とも言える軍命令が、戦艦大和以下の艦艦に下った。大和乗組員三千余名は、国の為に一命を捧げるという、きっぱりとした潔い覚悟で、米海軍に完全に制空権を奪われ、何の援護も無い海上を、沖繩に向かって出撃したのである。